

「AI技術により消えかけ白線ゼロ」の取組

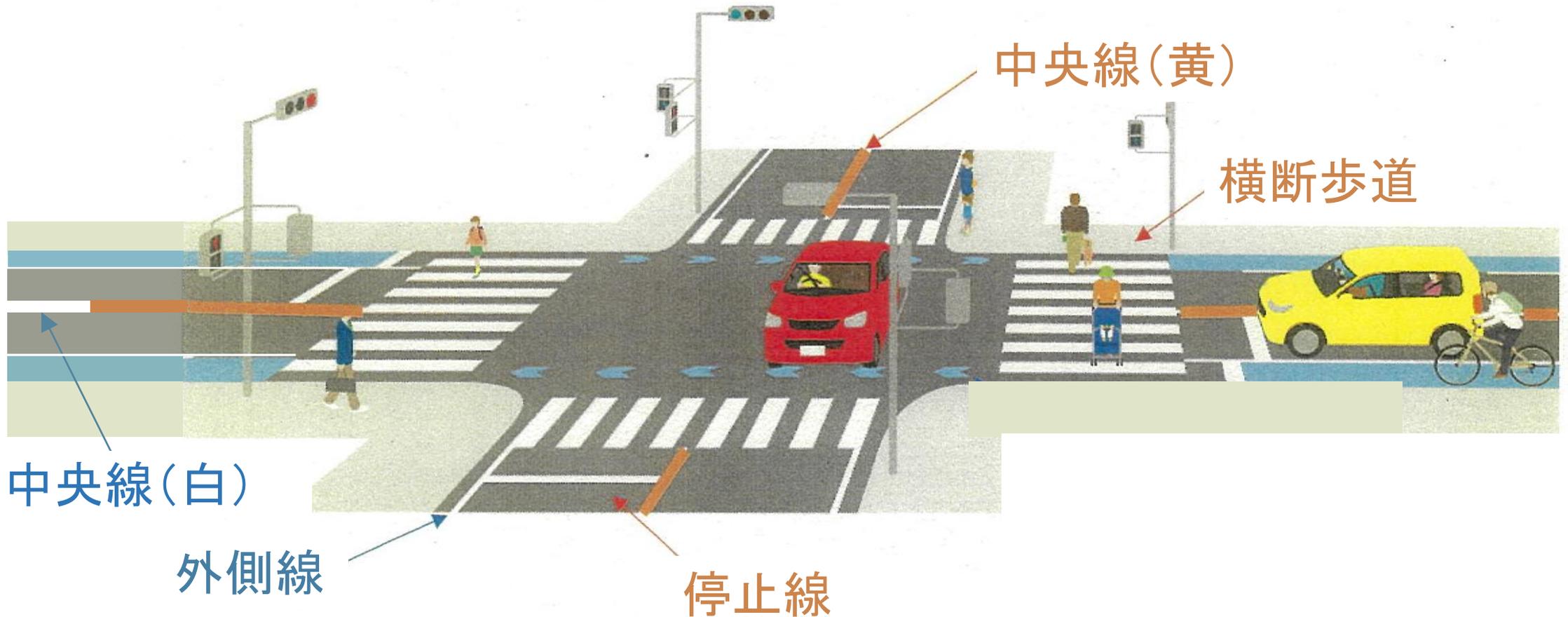


令和5年7月

県土整備局・県警察交通部
総務局デジタル戦略本部室

1 ライン(道路標示)の設置主体

- ・交通規制を伴うライン(横断歩道、停止線、中央線(黄)など)・・・県警察
- ・交通規制を伴わないライン(外側線・中央線(白)など)・・・国・県・市町村等



2 県内のライン(道路標示)延長

道路種別	道路延長	交通規制を伴わない ライン(外側線等)	交通規制を伴うライン (横断歩道等)
		国・県・市町村等	県警察
高速道路	85km	約500km	
国 道	713km	約1,900km	横断歩道・停止線・止まれ 約11,300km
県 道	1,481km	約2,800km	中央線等 約3,200km
市町村道	23,500km	約6,800km	
計	25,779km	約12,000km	約14,500km

※ 横断歩道等は、標示部を幅15cm換算した延長

3 横断歩道等のラインの補修

- R2からR4の点検結果を基に、苦情・要望が多い箇所を補修
- ・Aランク: R5中に補修完了予定
(R5当初予算約9.5億円)
- ・Bランク: R6中に補修完了予定
(R5.6月補正約2.7億円)

			点検結果による 推算延長
健全度 高い 低い	Eランク	視認性に問題なく 健全な状態	約 5,800km (51%)
	Dランク	標示の2割が消滅 のちに部分補修を要する	約 1,900km (17%)
	Cランク	標示の4割が消滅 部分補修を要する	約 1,500km (13%)
	Bランク	標示の6割が消滅 全面補修を要する	約 1,100km (10%)
	Aランク	標示の8割以上が消滅 早期補修を要する	約 1,000km (9%)
合計			約 11,300km (100%)

4 AIを活用した摩耗状況の把握(今年度からの取組)

標識点検業者の車にスマホを搭載
撮影した画像データを基に、AIセンサーで
ライン(中央線等)の摩耗状況を判定

➡ R5着手。県内全域を**3年で1巡**
※R5.6補正にスマホ・PCのレンタル費計上



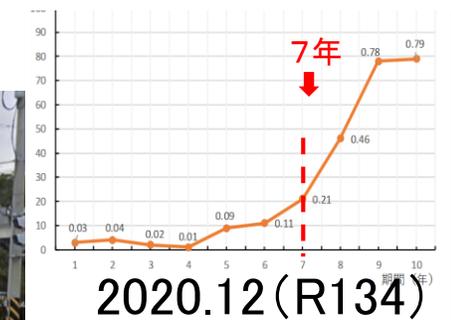
画像データは位置情報を伴い、
AI判定後、摩耗状況を色別に表示
凡例 **— 塗替え** **— 健全**

■ **ライン**の平均耐用年数は**7年**であり、3年で1巡する点検で摩耗状況の把握は可能

2017.11補修(R134)



経年別の平均剥離率(%)



2020.12(R134)

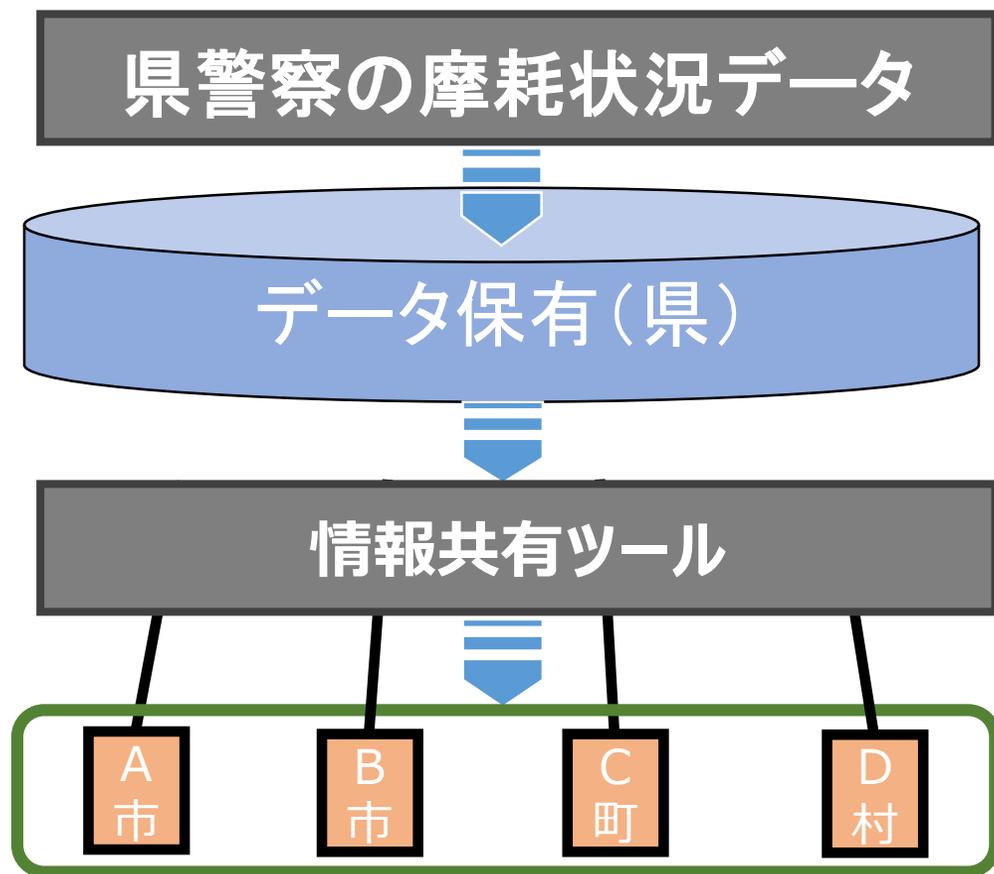


<将来的に…>

■ 点検を繰り返し、多くの摩耗データを蓄積することにより、摩耗サイクルを予測し、重点補修箇所を洗い出すなど、迅速かつ効率的な補修で“消えかけゼロ”を目指す

5 AIで把握した摩耗データの活用

- 県警察は県道や市町村道等のライン(外側線など)も合わせて撮影
- 県は県警察から外側線などの摩耗状況データの提供を受け、補修を促進
- 市町村が補修を促進できるよう、摩耗状況データを共有



データの活用方法や補修箇所
の優先度の付け方などは、
市町村担当課長会議等で助言

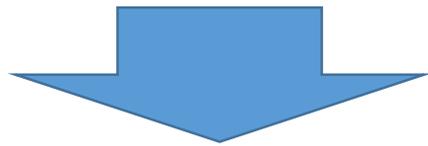
6 ライン(外側線等)の補修への財政的支援(国への提案)

<現在の補助対象>

- ・ 外側線等の新設

<R6国への提案内容>

- ・ **補助対象に外側線等の補修を加える**
(補助制度の拡充)
- ・ そのための必要な予算措置



「AI技術により消えかけ白線ゼロ」を目指す

- 外側線等の適切な維持管理は、自動運転(運転支援)に必要な走行環境の確保にもつながるので、国へ強く働きかけていく。

